

1 自己評価及び外部評価結果(3ユニット共通)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795600010		
法人名	有限会社 ディスカバリー		
事業所名	グループホーム虹Ⅱ		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護事業所		
所在地	大阪府泉南市中小路2丁目1860番地の1		
自己評価作成日	令和2年 1月20日	評価結果市町村受理日	令和2年2月21日

【事業所基本情報】

[http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2016\\_022\\_kani=true&JigvosyoCd=2795600010-00&PrefCd=27&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosyoCd=2795600010-00&PrefCd=27&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市東成区中道3-2-34(JAM森の宮事務所2F)		
訪問調査日	2020年1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの生活に応じて、職員が対応の仕方をかえてより良い雰囲気や、楽しく過ごせる日々を叶えられるように支援しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長い歴史を持つ医療法人と同系列の有限会社の運営で平成15年開設されたグループホームです。代表が変わり、名称を「虹Ⅱ」に改めました。これまでの実績を活かし、さらなるサービスの向上を目指しています。ホームは同系列の病院、老人保健施設と隣接しており、利用者は24時間医療連携支援を受けることができ、利用者・家族の大きな安心と信頼に繋がっています。管理者は泉南市独自のライフサポートコーディネーターでもあり、認知症の理解を拓げる啓蒙活動に熱心に取り組み、認知症ケアにおける地域の拠点として役割を担っています。また、地域との協力体制も良好で、大正琴・紙芝居・ハーモニカ・手品・歌等、多くのボランティアの協力があり、利用者の豊かで潤いのある暮らしとなっています。また、バイオリンや尺八の演奏等の家族の協力やサポートも、利用者だけではなく職員のみとなっています。利用者一人ひとりの個別ケアに取り組み、業に頼らない日常の介護実践は、職員の誇りでもあります。自由に意見を出し合い、職員の自主性が尊重され「仕事が楽しい」と言える風土は、離職者が少ない職場環境です。「うちの自慢はスタッフです」という管理者のもとで働く職員が支える利用者の毎日は、ほのぼのとしたアットホームな雰囲気を感じさせるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の2/3くらい 2. 利用者の1/3くらい 3. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(3ユニット共通)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各階に貼り、実践につなげています	「個人の尊重」「地域のみなさまと認知症進行の防止」「家庭的な雰囲気づくり」をホームの理念としています。理念は事業所内に掲示し、職員間で共有しています。利用者一人ひとりの個別ケアに取り組み、利用者・家族中心の支援を実践しています。	家族や地域住民からより支持・理解してもらえるように、エレベーター前に「理念」を掲示されてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	頻繁な地域交流はありませんが、地元のボランティア、民生員さんの来所は定期的に行っています	「地域があつての事業所」との代表の考えのもと、「地域に貢献できる事業所」を目指しています。ホームには、踊りや人形劇、歌や大正琴などの地域ボランティアが定期的に訪問しており、利用者の楽しみになっています。管理者は、キャラバンメイトでもあり、認知症の理解を拓げる啓蒙活動に熱心に取り組み、認知症ケアにおける地域の拠点として役割を担っています。泉南市独自の取り組みである「ライフサポートコーディネーター」として、どのような相談も受け入れる体制です。今後は、法人内での研修を他の事業所にも案内し、関係機関との交流や連携をさらに深めていく考えです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト・泉南市独自のライフサポートコーディネーターとして、地域での活動をおこなっています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各月の会議時に報告、ご意見を頂いています。又、ご利用者さんの経過もご本人に参加頂き実際の変化を見て頂きます	運営推進会議要綱に基づき、会議を開催しています。参加者は地区の民生委員、泉南市職員、地域包括センター職員、コミュニティソーシャルワーカー、利用者です。会議ではサービスや行事の報告を行い、参加者との質疑応答及び意見交換を通じてサービスの質の向上・確保に活かしています。利用者一人ひとりの事例を紹介し、実践を理解してもらっています。参加者からの労いや意見は、職員の励みとなっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事があれば、その都度連絡し、教えて頂きます	市の担当者とは、日頃の業務を通して相談できる関係ができています。認知症サポーター養成や認知症ケア研究会等、市と共に取り組み、協力関係を築いています。地域密着型事業が始まった時、市の担当者が「実地指導に入るには、事業を知らないではできない」との考えで実際に現場を見る努力をもらったことを始め、市の熱心な姿勢に管理者は感謝しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠について、徘徊のある方が多く入居されている事から、人の少ない時間帯には閉まっています	法人全体で「身体拘束廃止委員会」があり、身体拘束廃止について取り組んでいます。研修も実施し、職員で人権を守るケアの確認を行っています。利用者はエレベーターを利用し、各階を自由に行き来することが可能です。1階玄関は、ドアにあるチャイムを鳴らし、職員が対応し、外出を希望する利用者は、職員と一緒に出かけしています。薬に頼らない介護の実践は、職員の誇りと自信に繋がっており、日々のケアに活かしています。管理者は、職員のストレスにも配慮し、見守っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全員が外部研修で学ぶ機会は少ないものの、事業所内での虐待がなれ合いや見過ごされ無い様、スタッフ同士話し合い検討し、防止に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者された時点で成年後見制度を利用されていることもあり、その方たちと話す機会がありますが、学ぶ機会(研修等)は少なく全員の周知には至っておりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面談、文書等でお伝えし、尚かつ、不明な点は再度話しあひする様にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱や相談窓口を掲示しています。	家族からより多くの意見や要望を出してもらえようように、家族が言いやすい雰囲気作りを心がけています。各ユニットで「伝言ファイル」を作成し、家族が来られた時に予め用意していた内容を説明し、説明した職員と家族がサインをしています。年1回家族交流会を開催し、意見交換を行っています。交流会では、食事提供し、利用者・家族・職員が食事をしながら交流しています。運動会にも多くの家族の参加があります。バイオリン・尺八フルートの演奏に毎月来てくれる家族もあり、利用者・職員は楽しみに待っています。職員は、家族からの要望にも120%応える気持ちで支援にあたっています。	家族の意見・要望を更に有効にするため、ホームとして確認したいテーマに絞り、アンケートを実施されてはいかがでしょうか。その際、ホームの取り組み状況での良いところ、評価できる点も同時に確認されてはいかがでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日頃の申し送りの時間を利用し意見交換しています。	毎日のミーティングでも活発に意見を出し合っています。管理者は日常的に何でも話せる雰囲気作りを心がけています。代表から「人は宝」と教えてもらっている管理者は「うちの自慢はスタッフです」と職員の頑張りを承認し、労っています。自由に意見を出し合い、職員の自主性が尊重され離職者が少ない職場環境には、「仕事が楽しい」と言える風土が育っています。	職員の意見や要望が言いやすい職場環境ですが、今後は職員全員で話し合える会議や各ユニット会議などの開催が期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持てるよう、管理者より職員個々の実績等について報告すると共に勤務表での勤務状況・労働時間の把握。給与水準の検討を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隣接する施設と協力し短い時間ではあるが、研修をおこなっています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着交流会や、泉南市の研修に参加する事で他の事業所との交流・意見交換しサービスの向上に取り組んでいます。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時、本人様と話しあい、安心して頂ける様に努めます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入居前には困っている事などを、家族様に聞き取りをさせていただきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前までの趣味や育ってきた環境等伺いしサービスの方向性について検討します。他科受診の必要な際には、家族同行出来ない場合は、こちらでの対応をさせて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にテレビを見、物づくりし、一緒に食事をする時間を設けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その時々の様子をお伝えし、一緒に考えるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会があります。 昔からの知人の来訪に喜ばれています。	入居時に、長年馴染んだ生活や好みを聴き取り記録し、職員間で共有しています。また、馴染みの友人が訪問したり、墓参りに行く利用者もいます。入居前の地元のお祭りに行った利用者もいます。職員は、一人ひとりの馴染みの関係が途切れない支援を大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	催しの際には1階に皆さん集まれ、別のユニットの方同士お話しされる等、楽しく過ごされています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族様が訪問して下さりご本人の近況状況を伝えて下さったり、作った花・野菜等を持ってきてくださる等の交流があります。また、相談事もしてくださったりもあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を把握し困難な場合は本人にとってどれが良い方法かという視点で検討しています。	入居時に利用者・家族から、生活習慣や趣味、好み、暮らし方の希望等を聞き、記録したシートで共有しています。日頃のなにげない会話や様子から、希望や意向を把握するよう心掛け、日常の関わりの中での気づきや発見は、毎日の申し送りで口頭で伝えていきます。管理者は「利用者との対話の中から思いをひもといっていくこと」の大切さを職員に伝えていきます。	日常の関わりの中での気づきや発見は、口頭で伝え職員間で共有していますが、今後は記録に残し、個別ケアをより深める資料になることが期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・家族様と話し合い、情報を頂く事で、把握する様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録・申し送り等で伝え、現状の把握につとめています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族様の意見も聞かせて頂き、職員同士で話し合い現状に即した介護計画を作成できるようつとめています。	介護計画は、原則6ヶ月に1回作成していません。家族や利用者の思いや意向を反映したものになっています。モニタリングは毎日のケア記録を基に「モニタリング実施記録表」にまとめ次期介護計画に繋げています。サービス担当者会議には、家族・担当医・介護者から事前に意見を聞き、計画に反映していません。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙に個別ケア欄を設け記入し、申し送り時に、各階の情報を共有し、実践や介護計画の見直しにいかしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況を把握し職員同士で意見交換行い対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご自身で出来る事はして頂き、出来ない所は、声かけ・軽介助等で出来る自信につながる様心掛けています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じ受診の介助をおこなっています。また、かかりつけ医と密に情報共有する事で、より良い支援を築いていけるようつとめています。	同法人の病院による内科往診は2週間に1回(2回/月)、訪問看護は1週間に1回実施しています。往診ファイルに伝えたいことを記載することで、医師との情報共有を確実にしています。緊急時も自分達で判断するのではなく、かかりつけ医に連絡を取り指示を受けています。専門医の受診は職員が付き添い日々の様子を伝えています。緊急時に救急車を呼ばずに車いすで隣の病院に搬送できる等、併設病院との連携は、利用者・家族・職員の大きな安心と信頼になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が毎週あり、利用者様の変化や体調等伝え一人ずつ観察して下さっています。必要に応じて受診指示や今後の対応の助言を頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調不良時には受診し、必要時には入院治療しています。 入院時の情報は適時交換し退院時期の相談等も話します		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	新入居時に、ターミナルケア等についての希望を聞かせて頂きます。 老健・介護療養・病院が併設されている事からも、ご本人にとって今必要な介護・医療をご家族様と考えます。	家族が病院を希望されることが多く、入居時に詳細に経過や希望を聞き、医療と連携を深めています。重度化した時に何が必要なのかを随時話し合い、今できることを施設内で取り組んでいます。より丁寧な食事支援を行ったり、徘徊のため入院できない場合は施設から通院して治療を受けたこともあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接の病院への受診、また、ナースにより適切な対応の仕方の支持を頂いたりしています。 消防士による、応急手当などの指導を避難訓練時にして頂きます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接される施設との合同非難訓練を定期的に昼・夜想定にて実施しています。 出来る限り、ご利用者さまにも参加して頂きます。	消防署立ち合いのもと併設施設と合同の避難訓練を年2回行っています。今年は当施設詰所から出火の設定で煙の中での訓練を行いました。怪我の対応も学び、乾電池のチェックも行っています。備蓄は水・食料・米などを4日分置いています。平成30年の台風21号の2日間停電では、「利用者のために」との思いで職員一丸となり乗り越えました。その経験を災害時の対応に活かしています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に認知症の症状が違う事から、一人ひとりの人格にあわせた言葉かけや・対応を変えています。	丁寧な言葉でなくても、愛情の伝わる優しい言葉使いを心掛けています。引継ぎも「〇〇した」ではなく「〇〇されました」とすることで入居者本位に変わってきました。尊厳にかかわる事は周囲に気づかれないように配慮しています。法人全体で接遇強化月間としてポスターを作成し取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通がうまくできない方には希望や意思決定が出来る様普段からご本人の特徴をみて対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールありますが、ご本人の希望・気分により、適時の対応に努めています。 例)朝食の時間・入浴回数など		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の髭剃り支援(剃り残し介助) 月一回の理美容時には、ご本人の希望の長さ・家族様からの意見。 入浴時の衣類などは、なるべくご本人様と一緒にするようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は介護食品を導入していますが月2回をご利用様希望の食材を入れる手作り日にしています。 手作り際には、会話を楽しみながら作っています。	食事はチルド(湯煎で温める方式)を導入し、ご飯と味噌汁はホームで用意しています。麺類の時はご飯の量を一人ひとり確認しながら配膳しています。月2回の手作りの日のために日ごろの会話の中から、食べたいものをくみ取るようにしています。ご夫婦同じテーブルで会話をしながら食事をしたり、できる人は、自分で下膳をしています。骨まで食べられる食事に代えたことで、骨折する利用者が減りました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録を行い水分は食事以外に起床時・入浴時・体操後・おやつ時・就寝前に補水を行っています。飲みづらい方には、ゼリー等にて代用し補水に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが困難な方には、清潔に保てるよう介助しています。 歯磨き粉の使用が出来ない方には、水みがきにて行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを理解し、時間毎の誘導や排泄前の表情等を察知した誘導をすることで少しずつ無理の無い自立した排泄へと促します。又、立位が困難な方には、スタッフが2人ついでの誘導での対応をしています。	日中はトイレ誘導・紙パンツ使用の方が多く、24時間紙おむつの方は1名です。おむつを使用していた方も服薬を見直すことで布パンツに代わりました。便薬を使用してる方は腹痛が起きた時にトイレ誘導をし、失禁しても便秘よりいいと失便を厭わずシャワー浴をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材の提供、牛乳・水分補給にて便秘予防に取り組んでいます。また、泉南市独自のWAO体操や施設内での歩行訓練等を行い予防につなげています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を行っている。入浴を嫌がる方には、時間をずらして入浴して頂いたりタイミングをはかっています。排便等にて不潔にならないよう、シャワー浴をさせていただく事もあります。	明るい浴室では、浴槽の中で腰を掛けゆったりと過ごせます。入浴を好まない方には時間を変えたり今日ダメなら明日でもよいと考え、言葉を変えながら誘導しています。肌の弱い方は家族に石鹸等合うものをお願いしています。また、台風で停電していた電気が2日ぶりについて朝、夜勤明けの職員が「お風呂に入ってもらいましょう」と言ってくれたエピソードがあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室内にトイレがあり、テレビ・パソコン・ラジオを持ち込みされている方もありご自身の部屋でゆっくり過ごして頂けます。又、昼夜逆転を防ぎ体内時計を安定させる為にも、レク(将棋・トランプ・塗り絵・パズル)、ボランティア様、WAO体操(泉南独自)を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を職員が見れる所に保管し薬が変更になった場合は様子観察おこない、主治医(内科・精神科)と随時連携を取っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	同じ趣味の人同士、他ユニットへ訪問する事もたびたびあり。(将棋・囲碁・カラオケ)お一人で出来ない時には、スタッフが付きお手伝いをさせていただきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日光浴の支援は行っていますが、外出はイベント時(花見等)、または退院受診時のみとなっています	気候の良い時期には、玄関前でおやつを食べるなど、季節や天候を感じられるようにしています。通院やイベントの時の外出のほか、隣接した病院の支払いと一緒にいたり、家族との墓参りの支援なども行っています。外出の機会が少ないことがホームの課題ととらえ、今後外出の機会を増やしていく考えです。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方は家人了解のもと行い、預かりを希望されますとこちらでの管理とさせていただきます。が、預かりさせて頂く方が増えています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	こちらから手紙を出される方はほとんどいませんが、届く事はあります。電話も同じで、かかってくる事が多いです。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	囲碁・将棋・パズル・カラオケ・トランプなどそれぞれに楽しんで頂くために、テーブルセティングをその都度おこないます。ホールには、皆さんの作品を展示し、季節感を取り入れる様にしています。	玄関には家族が作った手芸品が展示され、温かい雰囲気でお客を出迎えます。ホームのフロアは明るく、壁には利用者と職員の手作り作品を掲示しています。窓からは畑や空き地が広がり、夏は泉南の花火大会も楽しめます。カメラ好きな方は自由に写真展示をし、家族のボランティア演奏でバイオリンやフルートのステージにも変わる1階ホールは楽しい共用空間です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにてご自身の好きな椅子に座られ、お一人の空間で過ごされたり、利用者同士での会話を楽しまれたりされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた椅子・テーブル等を持ち込まれたり、パソコン・携帯電話でメールをされているご利用者さまもいらっしゃいます。	居室にはベット・箆笥・エアコン・カーテンが備え付けられています。箆笥の開き戸をとり外す等、利用者にあった過ごしやすい工夫をしています。洗面所の清掃や床拭きは毎日行い、シーツ交換時にはベッドまわりも拭いて清潔を保っています。一人ひとり、好みのもの置き居心地の良い部屋にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分からない人には、場所が分かる様トイレのドアをはずしたり、居室の前に表札や目印を置いて、自立した生活ができる様にしています。中には、旧姓を貼らせて頂いてる方もいます。		